



大成ロテック 藪田 英俊 社長

# 成長実現の素地づくり

「利益最優先という意識が浸透し、追い風にも乗って業績は順調に推移した」と2015年を振り返る。工事の利益も改善し、高収益体質への転換を実感している。同年4月からは新たな中期経営計画（15―17年度）もスタートした。良好な市場環境は20年の東京五輪前までは続く」とみるが、ポスト五輪を見据え、「事業量を維持するため、

舗装以外にも可能性を探っていく」と継続的な成長を実現するための素地づくりに力を注ぐ。「着実なる成長を目指して」をスローガンとした中期経営計画では、▽高収益体質への転換▽人の集う、働き甲斐のある会社の実現▽継続的發展を維持するための素地の形成▽グループ戦略の推進▽基本的事項の継続及び強化――の5つを基本方針

は、「新設工事が減少し、維持補修工事へとシフトするため、製造量は減少する可能性が高い。製造原価を下げるために設備更新などで効率化を図るなど、合材部門の体質改善にも取り組んでいく」考えだ。20年東京五輪後の環境変化に対応するため、15年10月には本社に事業推進部を立ち上げた。「当社の潜在的な技術力を本社

システムに革命を起こすべく、i-Construction（アイ・コンストラクション）を推進しているが、将来的に見込まれる労働力の減少を見据え、機械化、無人化施工など、生産性向上に向けた取り組みもこれまで以上に加速させる。16年は「ゆとりの創出」にも特に力を入れる。15年に全国の9事業所で試行的に実施した時短や休日取得推進の取り組み結果を踏まえ、4月からは各事業所の実情に応じながら「労働環境の改善に向けた取り組みを拡大していく」方針だ。

に掲げている。

3カ年の設備投資は、年間40億円程度で計画し、老朽化したプラントの改修のほか労働環境の改善に向けた事務所や労務宿舎のリニューアルなどを推進する。

アスファルト合材について

国土交通省がICT（情報通信技術）を積極活用し、建設生産

会社の実現に向けて、新たな一歩を踏み出す。